

平成30年9月3日

林 野 庁
近畿中国森林管理局

林業の低コスト化に向けて
民有林関係者を対象とした現地検討会の開催について

近畿中国森林管理局では、森林総合研究所関西支所との連携により、林業の低コスト化に向け、国有林野での技術開発の成果を民有林に普及することを目的として、幅広い民有林関係者の方々を対象とした現地検討会を開催いたします。

近畿中国森林管理局と森林総合研究所関西支所は、平成25年に連携協力協定を締結して以降、毎年、民有林関係者の方々を対象とした現地検討会を開催しています。昨年は、2日間で延べ166名に参加いただきました。

6回目となる今年は、コンテナ苗を活用した造林・育林経費の低減をテーマとして、岡山県新見市内において開催いたします。

記

1. 日 時

<第1部> 平成30年10月11日（木）14時00分～17時15分

■受付時間：13時30分～

<第2部> 平成30年10月12日（金）9時50分～11時30分

■受付時間：8時30分～8時50分

（マイクロバスで会場に移動するため厳守）

2. 会 場

<第1部> JA阿新会館3階ホール（岡山県新見市高尾2423）

■集合場所：会場前

JR伯備線新見駅から徒歩3分

<第2部> 入開山国有林（新見市）

■集合場所：新見郵便局前（新見市高尾2485-11）

JR伯備線新見駅から徒歩4分

3. 内 容

現地検討会の趣旨などは、添付資料をご覧ください。

<第1部>

14:00～14:10 開会挨拶（近畿中国森林管理局森林整備部長、森林総合研究所関西支所長）

14:10～14:50 低コスト再造林を目指した技術開発（森林総合研究所）

14:50～15:30 技術開発「伐採・植付一貫作業下でのコンテナ苗等の活着・生育実証」の成果
（森林総合研究所関西支所）

15:40～16:00 近畿中国森林管理局における造林の低コスト化の取組（近畿中国森林管理局）

16:00～16:15 全体質疑

16:15～17:15 <実演>充実種子選別装置（森林総合研究所、九州計測器株式会社）

< 第2部 >

- 9:50 ～ 10:05 平成26年度コンテナ苗植栽地 施業※履歴等説明 (近畿中国森林管理局)
10:05 ～ 10:20 同上 生育状況説明 (森林総合研究所関西支所)
10:20 ～ 11:20 同上 視察
11:20 ～ 11:30 閉会挨拶 (近畿中国森林管理局森林整備部長)
※施業とは、目的とする森林を造成・維持するために行う植付、雑草の刈り払い、間伐などの作業。

4. 対象者

府県、市町村、森林・林業研究機関、森林整備センター
森林組合、種苗生産組合、林業事業者、種苗生産者
林野庁・森林総合研究所等、全体で70名程度

5. 主催

林野庁 近畿中国森林管理局
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所関西支所

6. その他

取材を希望される場合は、事前に担当者にご連絡ください。
過去の開催状況は、当局ホームページ(<http://www.rinya.maff.go.jp/kin/ki/>)でご覧になれます。



<< 添付資料 >>

- ・造林・育林経費の削減に向けて～コンテナ苗の活用～
- ・会場・集合場所位置図

【問い合わせ先】



林野庁 近畿中国森林管理局
森林整備部 技術普及課 櫻井、高山
ダイヤルイン：050-3160-6729
FAX：06-6881-2055
メール：kc_fukyu@maff.go.jp

造林・育林経費の削減に向けて ～コンテナ苗の活用～

林業の成長産業化には、造林・育林経費の削減が必須

我が国の林業は、木材販売収入に対して造林・育林経費が高いことが課題です。特に、最も経費がかかる植栽から10年間の経費を削減できれば、林業の成長産業化に大きく貢献します。

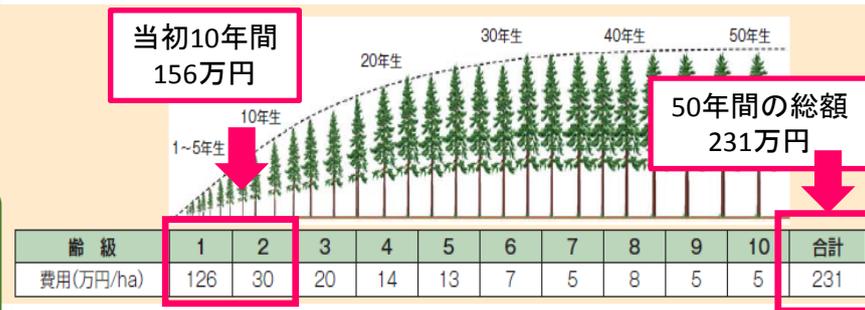
50年生の
木材販売収入
131万円/ha

平成24年の丸太価格（スギ
中丸太価格）に基づく試算

50年間に要する
造林・育林経費
231万円/ha

（そのうち、
156万円が当初10年間）

スギ人工林の造成に要する費用



注：年齢は、林齢を5年の幅でくくった単位。苗木を植付した年を1年生として、1～5年生を「1年齢」と数える。
資料：農林水産省「平成20年度林業経営統計調査報告」（平成23(2011)年1月）

引用元：平成26年度森林・林業白書

コンテナ苗の活用による造林・育林経費削減

コンテナ苗は、通常は植付に適さない夏を含めて年中植えられるため、伐採から植付までを連続して行うことで、
 ✓ 伐採木を集める際に使う機械で林地の整理ができる
 ✓ 丸太の運び出しの際に使う機械を使って、苗木を運搬することができる
 ✓ 雑草が茂る前に植付するので、雑草の刈り払いが不要といったメリットがあり、初期の経費が削減できます。

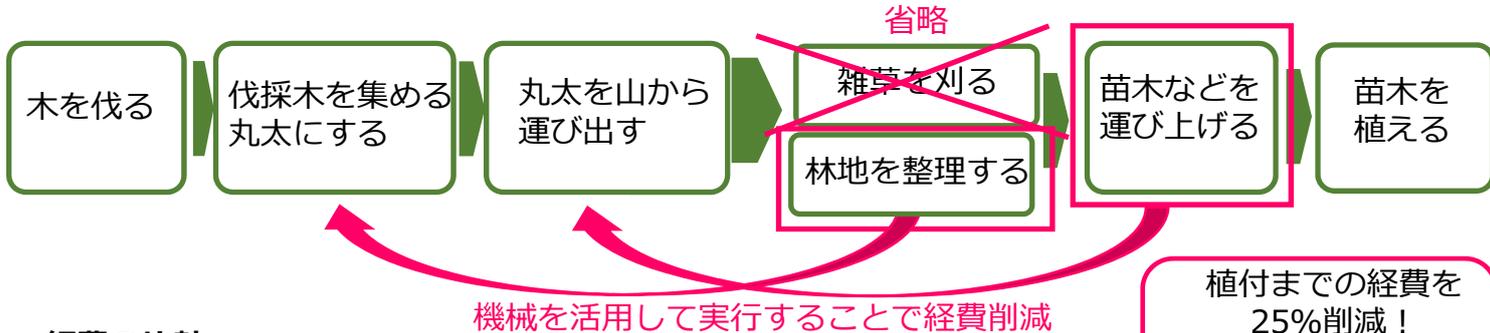


コンテナ苗

根巻きを防止できるコンテナで育てた苗木。従来の裸（はだか）苗と異なり、根鉢があることで、根が出荷時に乾燥等から保護されていることなどから、植栽適期以外でも植付可能です。

現地検討会第1部では、こうしたコンテナ苗のメリットやコンテナ苗の植栽試験の成果などを報告します。第2部では、平成26年度に植付したコンテナ苗の生育状況を視察していただきます。

■従来の伐採から植付までの流れとコンテナ苗を活用する場合



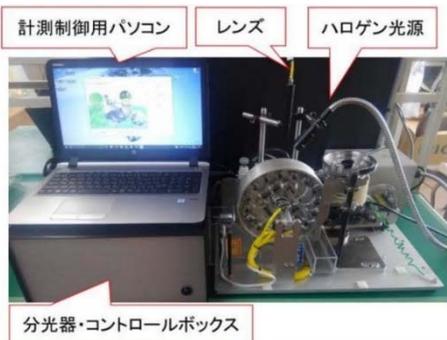
植付までの経費を
25%削減！
苗木の成長が良く、翌年の刈り払いも省略できればさらに経費削減が可能。

■経費の比較

	植付前の雑草の刈り 払いと林地の整理	植付	合計
コンテナ苗	—	91万円/ha	91万円/ha
従来の裸苗	52万円/ha	69万円/ha	121万円/ha

注：岡山県新見市内の国有林での2事例の比較

充実種子選別装置によるコンテナ苗生産コスト削減



充実種子選別装置

引用元：森林総合研究所HP

一般にスギやヒノキなどの種子は発芽率が低いという特徴があります。発芽の能力を外観で区別することは非常に困難です。コンテナに蒔いた種が発芽しなければ苗の生産効率下がってしまうため、現状では苗畑で育てた幼苗を移植するなどの作業を行っており、それらの作業にコストと時間がかかっています。そこで、森林総合研究所では、九州大学、(株)住友林業、九州計測器(株)との協同により、近赤外光を用いて充実種子を自動選別する機械の開発に取り組んでいます。

現地検討会第1部において、この充実種子選別装置の実演を行います。

現地検討会

第1部 10/11 (木) 会場・集合場所
第2部 10/12 (金) 集合場所

第2部『集合場所』 新見郵便局前

受付時間 8:30 ~ 8:50

当局が用意するマイクロバスで現地に向かいますので、
集合場所には徒歩でお越しください。

第1部『会場・集合場所』

JA阿新会館3階 ホール

受付時間 13:30 ~

